

急性歯肉炎・辺縁性歯周炎に…。

保険適用

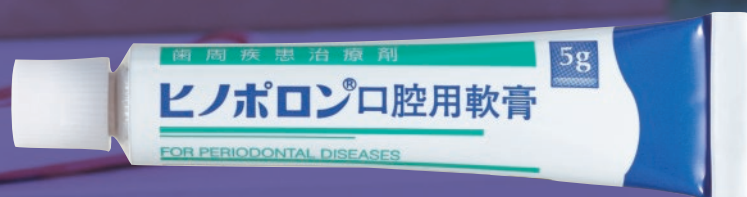
薬価基準収載

日本標準商品分類番号:872790e

処方箋医薬品 (注意-医師等の処方箋により使用すること)

歯周疾患治療剤
ヒノポロン[®]口腔用軟膏

ヒノキチオール・ヒドロコルチゾン酢酸エステル・アミノ安息香酸エチル配合剤



製品説明
動画はこちら



【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

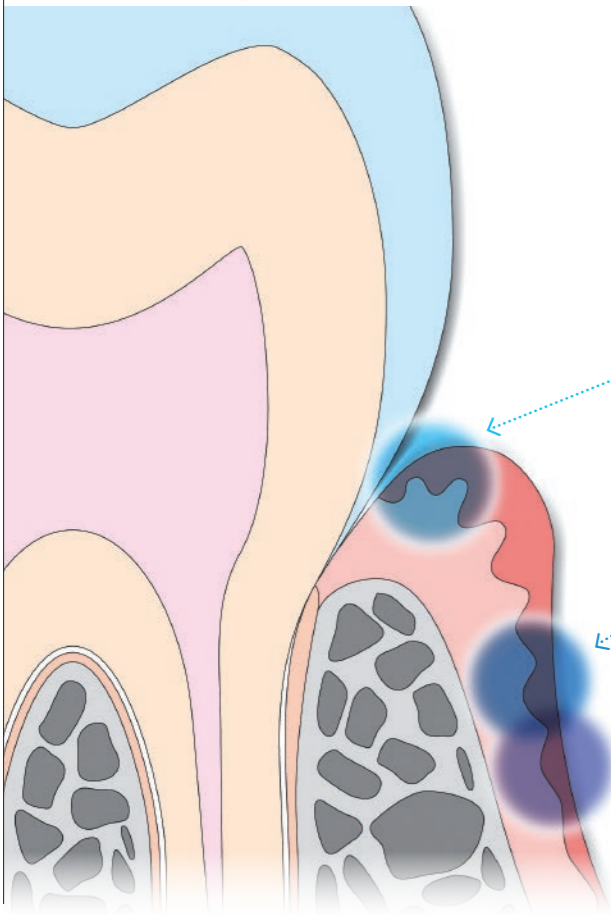
- (1) 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) メトヘモグロビン血症のある患者[症状を悪化させるおそれがある。]

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は最終頁のDIをご参照ください。



株式会社 ジーシー昭和薬品

特徴



抗菌・抗炎症・鎮痛作用&マッサージ効果で急性歯肉炎・辺縁性歯周炎の症状を改善

ヒノポロン口腔用軟膏の3つの有効成分と特徴

- 抗菌** **ヒノキチオール**
 歯周疾患の炎症や化膿に関与する細菌に対して幅広い抗菌作用を示す。
- 抗炎症** **ヒドロコルチゾン酢酸エステル**
 プロスタグランジン類などの起炎物質の生合成抑制と炎症細胞の遊走抑制により抗炎症作用を示す。
- 鎮痛** **アミノ安息香酸エチル**
 神経細胞膜のNa⁺チャンネルを抑制することによって神経の活動電位発生を抑制し、鎮痛作用を示す。

使用方法

STEP 1 「歯みがき」または「うがい」をしてください。ティッシュペーパーなどで、患部の唾液などを拭き取ってください。

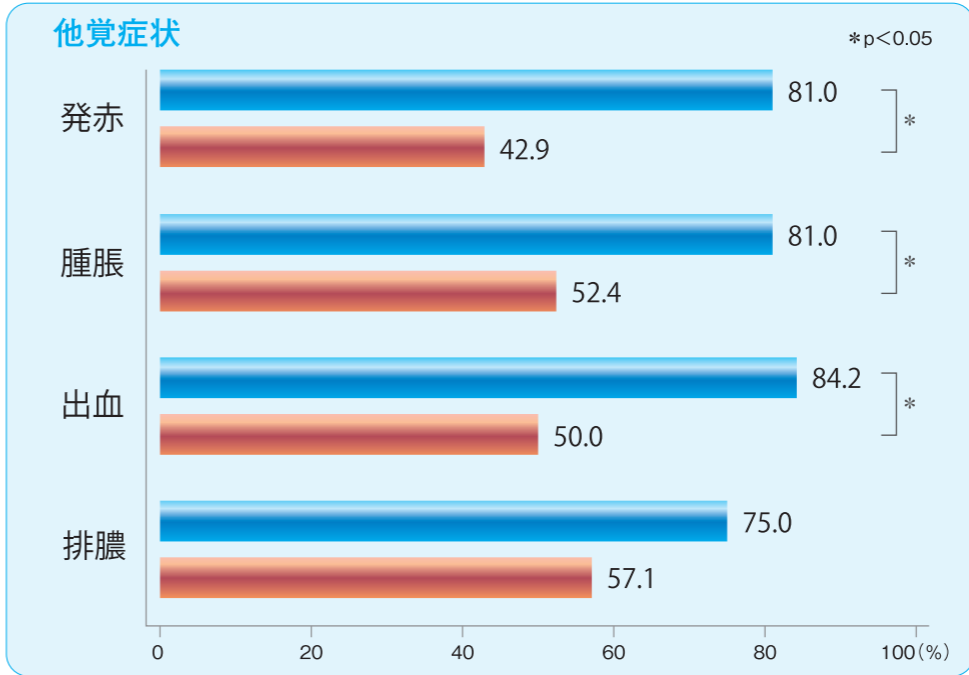
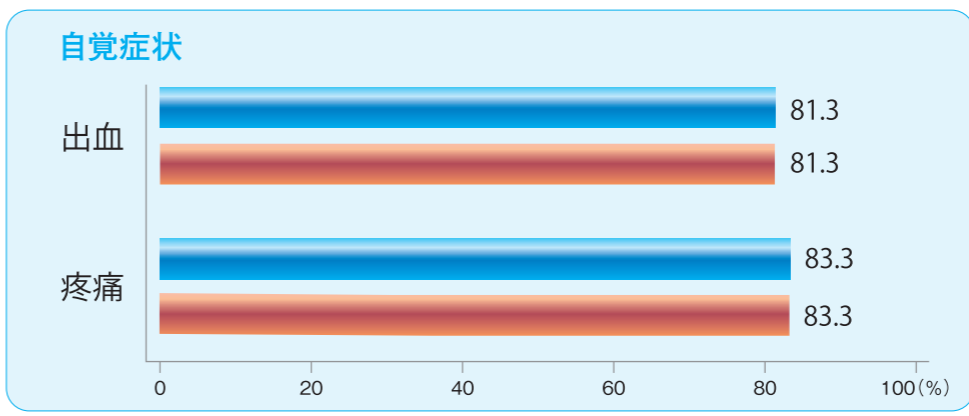
STEP 2 患部1カ所につき「ヒノポロン」約5mmを指先または「微細ソフト毛歯ブラシ」などに取ります。

STEP 3 ポイント 患部に塗布し、歯肉全体をマッサージしてください。
塗布直後に、鎮痛作用によりしびれなどの違和感を生じることがあります。塗布後しばらく(1時間程度)飲食を避けてください。

上記のSTEPを1日1~3回おこなってください

臨床成績

辺縁性歯周炎の症状別改善度(やや改善以上の改善率:使用7日目)



■ ヒノポロン
■ プラセボ

歯周病に対するヒノポロンの二重盲検法による臨床的再評価
渡辺久郎ほか 愛知学院大学歯学会誌 25 (1), 133~143 (1987)

対象 : 辺縁性歯周炎患者42名

使用方法 : 辺縁部位を綿花またはガーゼにて清拭した後、チューブから適量 (0.2~0.5g) を取り、1日2~3回手指にて歯肉およびポケット内に塗布

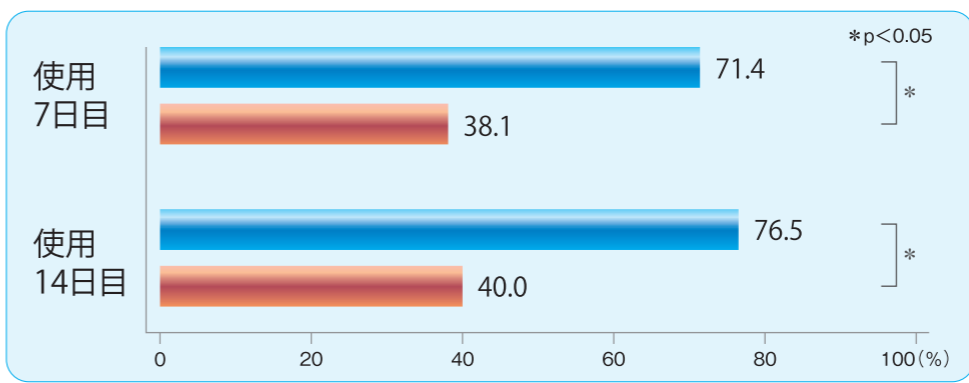
使用期間 : 1週間を目安とするが、臨床症状が肉眼的に消失しない場合はさらに1週間使用

判定基準 : (評価症状別改善度)
 自觉症状、他覚症状を0~3の4段階で評価し以下の基準で判定
 改善 : 2点以上の減少、1→0
 やや改善 : 3→2、2→1
 不変 : 3→3、2→2、1→1
 悪化 : 点数の増加

(総合効果)
 4つの他覚症状(発赤、腫脹、出血、排膿)の改善度について以下の基準で判定
 著効 : 5点以上の減少、3→0
 有効 : 3点以上の減少、2→0
 やや有効 : 1点以上の減少
 無効 : 変化なし、または点数の増加

副作用 : 全例に認められなかった。

辺縁性歯周炎の総合効果(有効以上の有効率)



副作用が疑われる症例報告に関する情報

2004年4月1日~2022年2月28日までの約18年間に、口の感覚鈍麻:1件、感覚鈍麻:1件がPMDAに報告されています。

歯科診療報酬点数例

投薬の場合

薬価 1g 175.90円

薬剤料(外用薬)	88点 (5gチューブ/1本)
調剤料(外用薬)	8点 (処方1回につき)
処方料(外用薬)	42点 (処方1回につき)
薬剤情報提供料	10点 (月1回)
合計	148点

院内処置の場合

特定薬剤としての算定例

使用量の目安	請求点数
1歯 約0.03g	0点
1/3顎 約0.07g	0点
2/3顎 約0.13g	2点
1顎 約0.20g	4点

歯周疾患治療剤

薬価基準記載

ヒノポロン® 口腔用軟膏

ヒノキチオール・ヒドロコルチゾン酢酸エステル・アミノ安息香酸エチル配合剤

規制区分：処方箋医薬品

注意—医師等の処方箋により使用すること

貯法：室温保存

使用期限：3.5年(外箱に表示)

日本標準商品分類番号	872790e
承認番号	22100AMX01600000
薬価基準記載年月	2009年9月
販売開始年月	1965年11月

禁忌(次の患者には投与しないこと)

- 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- メトヘモグロビン血症のある患者[症状を悪化させるおそれがある。]

組成・性状

有効成分(1g中)	ヒノキチオール 1mg	(日局)ヒドロコルチゾン酢酸エステル 5mg	(日局)アミノ安息香酸エチル 15mg
添加物	プロピレングリコール、マクロゴール、ステアリルアルコール、ゲル化炭化水素、dl-メントール、パラベン		
性状	本剤は白色のやや流動性を帯びた軟膏で、メントールのおいがある。		

効能又は効果

急性歯肉炎、辺縁性歯周炎

用法及び用量

十分清拭乾燥した患部に1日1回適量を注入する。又は、塗布する場合、患部を清拭したのち、通常1日1～3回適量を使用する。

使用上の注意

1.相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法
ヨード製剤、その他の金属塩を含む薬剤	ヒノキチオールの効果を減弱させるおそれがあるので併用を避けること。

2.副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1)重大な副作用(頻度不明)

1)ショック

ショックがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧降下、顔面蒼白、脈拍の異常、呼吸抑制等の症状があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。(アミノ安息香酸エチルによる)

2)中枢神経

振戦、痙攣等の中毒症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、ジアゼパム又は超短時間作用型バルビツール酸製剤(チオペンタールナトリウム等)の投与等の適切な処置を行うこと。(アミノ安息香酸エチルによる)

(2)その他の副作用

	頻度不明
中枢神経 ^{注1)}	眠気、不安、興奮、霧視、眩暈、悪心・嘔吐等(アミノ安息香酸エチルによる)
過敏症 ^{注2)}	過敏症状
下垂体・副腎皮質系	下垂体・副腎皮質系機能の抑制(大量又は長期にわたる使用による)
血液 ^{注2)}	メトヘモグロビン血症(アミノ安息香酸エチルによる)

注1)このような症状があらわれた場合は、ショックあるいは中毒への移行に注意し、観察を十分に行い、必要に応じて適切な処置を行うこと。

注2)このような症状や異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3.妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立されていないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、長期使用を避けること。

4.適用上の注意

眼科用として使用しないこと。

取扱い上の注意

<注意>

(1)本剤は、光や温度及び金属の影響により徐々に変色する性質があるので、使用後はキャップをしっかりと締めて保管すること。

(2)シリンジを使用する場合には、安全性の面からロック式のミニウムシリンジを使用すること。

包装

5gチューブ、5gチューブ×10、5gチューブ×20

詳細は電子化された添付文書をご参照ください。添付文書の改訂にご留意ください。
2022年4月改訂(第8版)添付文書より作成

製造販売元(お問い合わせ先)



株式会社ジーシー昭和薬品

東京都板橋区蓮沼町76番1号

TEL:0120-648-914

(受付時間)9:00~17:30(土・日・祝日・弊社休日を除く)

HNP27901P

2022年4月作成(T-2204PW)